

動画配信サブスクリプションサービスの普及と著作権に関する意識調査

原島直輝 (22011274nh@tama.ac.jp)

1. 研究の背景

2020年から在宅時間の増加等による、インターネット経由で動画視聴が増加している。有料の動画配信サービスの利用率は年々増加傾向にあり、巣ごもり需要の影響もあってか例年以上に利用率を大きく伸ばしている。日本では多くのサブスクリプションサービスが存在し、それぞれの企業等が独自性をもって多様なニーズに答えるため様々なサービスを展開している。高校を卒業し、自分のために使える時間も増えたためこういったサービスを受けられる時間も生まれた。一方で違法アップロードやファスト映画などが度々問題となり、東京地方裁判所がファスト映画をアップロードした2人に対し著作権侵害に損害賠償保証金、5億円の支払いを命じる判決を言い渡した裁判も発生している。映画を楽しむということの形態が変わってきているのではないかと感じた。

2. 研究の目的

1、若年層の映像作品の鑑賞がどの程度浸透しているか。2、若年層のサブスクリプションサービスの普及の状況。3、若年層の著作権に対する意識。を明らかにする。

3. 先行研究

森田秀一、インプレス総合研究所

(2022) 国内の動画配信ビジネスの最新動向と展望・サービスの概要と特徴・映像・動画全体の視聴状況と有料サービスの利用率・動画配信サービス利用者の利用実態

「動画配信ビジネス調査報告書 2022」

中川 正悦郎 (2021)

動画配信サブスクリプションサービスを対象に、コンテンツの知覚多様性が同サービスに対する消費者のロイヤルティを高めることに寄与するかを検証する研究。「動画配信サブスクリプションサービスにおけるコンテンツの知覚多様性が消費者のロイヤルティに与える影響」

4. アンケート概要

・ Google アンケートフォームでアンケート

作成

・ クラウドワークスに加え SNS でのアンケートを実施

・ 多摩大生以外も含む高校を卒業した 10 代後半～20 代前半の計 156 名に調査を実施

5. 調査結果の分析と考察

若年層の映像作品の鑑賞がどの程度浸透しているか。サブスクリプションサービスの利用について。違法アップロードの視聴について。3 つについて予測を立て分析した。①若年層の映画離れが囁かれていることから、アニメは見るが映画は見ない等ジャンルに差があるのではないか。②多くの人がサブスクを使っていてサービスに満足しており、テレビよりサブスクを見る人が多いのではないか。③コロナ禍や法整備、視聴サービスの充実により違法アップロードを見ることは少なく、若年層の倫理観で少しでも著作物を守ろうという意識があるのではないか。という予測を立て、娯楽として映像作品を楽しむことが十分に浸透している事、サブスクが浸透しており、様々なサービスから取捨選択している事が明らかとなった。

今後は違法アップロードの視聴についての分析を引き続き行っていく。

6. 参考文献

総務省 | 令和三年版 情報通信白書

サブスクリプションサービス利用と顧客満足の特性 太宰 潮 j-stage より

動画配信サブスクリプションサービスにおけるコンテンツの知覚多様性が消費者のロイヤルティに与える影響 中川 正悦郎 j-stage より

令和 4 年 (ワ) 第 12062 号 損害賠償請求事件 判決文より

「映画離れは本当か? 映画、テレビ、インターネット、利用動向に年代差あり」経済産業省、経済解析室ひと言解説集より

「ファスト映画の損害額「1 回再生で 200 円」、無断投稿の 2 人に 5 億円賠償命令…東京地裁」読売新聞オンラインより